

有識者意見の概要及び意見に対する対応

1. 調査研究課題名「多様な地域公共交通サービスの導入状況に関する調査研究」	
2. 有識者意見の概要及び対応 有識者：轟 朝幸 氏 日本大学工学部 教授 吉田 樹 氏 福島大学 人文社会学群 経済経営学類 准教授 寫田 紀之 氏 地域公共交通マイスター (南房総市 教育委員会 生涯学習課 課長補佐)	
意見の概要	意見に対する対応
<ul style="list-style-type: none"> 客観的な効果として利用者数増を挙げているが、自治体によっては、違う目線で、運行経費や収支率を見ているところもある。デマンド交通は他の交通手段から補助を減らすために、輸送効率化を図る目的で導入しているところも多く、利用者については二の次としているところもある。この点を留意すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者数の増減について端的に効果あり・なしと記載するのは避けました。また、利用者の増減のみならず、事業継続、運行経費の増減の観点についても、デマンド交通の客観的な効果として整理しました。
<ul style="list-style-type: none"> 深度化アンケートのクロス集計で、他の要因による影響がありそうな結果は、拙速に結果を示すのは控えた方がよいのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> クロス集計に関して独立性の検定を行い、確からしさのあるものに絞って結果及び考察を絞りました。
<ul style="list-style-type: none"> 利用者数が減少する原因としては、自然減のみでなく、工業団地がなくなる等地域特有の事情もある。地域別客観的効果の有無を判定する際に、それを加味していな旨を予め丁寧に論じる必要がある。定義付けをしっかりとしないと誤解を招く可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者数増減の評価においては、前提として地域特有の事情を加味した評価ではなく、アンケート回答自治体全てを一律に評価したという説明を冒頭に加筆致しました。
<ul style="list-style-type: none"> 地域特性に照らした分析は、市区町村の立場から注目するところであるので行うべきである。都市、地方部等の地域分類を行った上で、うまく運営している市区町村は、どの取組に重点を置いたのか分析するとよいのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域特性については、主な施策については、深度化アンケートのクロス集計やヒアリングを行って分析していますが、平成 30 年度の調査研究において、さらに深掘りして国勢調査等の統計データを用いて類別を行い、市区町村の自らの状況と照らし合わせることを可能とし、適切な取組が示せるように考えております。
<ul style="list-style-type: none"> デマンド交通において高齢化率等の地域特性ごとに運行頻度や運行時間帯、ドア・ツー・ドアの運行方式等のサービスを比較することや、財政力指数等の自治体の財政力を示す指標をもとに特徴を見ることは、市区町村が自分の位置を確かめる上で有効である。 	<ul style="list-style-type: none"> デマンド交通のサービスの類型化、自治体の体力等の分類により評価することを平成 30 年度の調査研究として整理致します。
<ul style="list-style-type: none"> 報告書は、自治体の交通担当者にとって実効性のあり、うまく活用できるものを作るべき。 	<ul style="list-style-type: none"> クロス集計結果について、導入検討過程毎に利用者数の増減や事業継続、運行経費増減に寄与したと考えられる要因を簡単にまとめ、分かりやすくしました。2 年目の平成 30 年度の調査研究では、さらに市区町村の状況に応じて行うべき施策・アクションを手引き書（仮称：処方箋）としてまとめる予定です。